

「せとうち観光専門職短期大学」開学にあたって

2021年4月、高松市で「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称・設置認可申請中、以下本学）の開学を予定しています。今回は本学が「どのような専門職短大となるのか」、理事長、学長、学科長に就任が予定されている三者が集まり、鼎談のかたちでお話します。

なぜ、いま「せとうち観光専門職短期大学」の創設なのか？

「まず、はじめにうかがいたいことは、学校法人穴吹学園が「なぜ、いま観光振興の専門職短期大学を創設するのか」という「設置の意図」です。」

穴吹 穴吹学園は、一九八五年に四国情報ビジネス学院を開設し、それ以降、地域の人材育成のニーズに応え、各種の専門学校を開学してきました。現在では、穴吹カレッジグループとして、香川県高松市に九校、徳島県に三校、広島県にも六校の専門学校を設置しています。

これらの専門学校は、企業の業務現場で即戦力となる人材を育成しつづけています。二〇二〇年四月現在で卒業生累計が三万七三二四名となり、三十余年にわたり地域社会の人材教育に貢献してきました。

「そのように地域に根ざし地域に貢献する穴吹学園が、高校卒業生の一八歳人口が長期的に減少し、多くの大学が学生募集に危機感を募らせるなかで、あえて三年制の専門職短期大学をなぜ新たに創設するのか、その意図を理事長からお話してください。」

穴吹 せとうち観光専門職短期大学（三年制）観光振興学科（仮称）を創設するのは、主に二つの理由があります。

ひとつは、観光振興事業を担う、高度専門職業人を育成する喫緊の課題が、国内外、そして本学の位置する瀬戸内地域にもあり、そうした人材を本学から輩出したいと考えたからです。

この課題は、観光が世界中で凄まじいほどの勢いをえている現実を背景としています。その影響は、わが国のインバウンド観光を激増させ、瀬戸内地域やここ香川県高松市でもとても顕著となっています。

青木 たしかに、観光の勢いは重大な現実になってきました。二〇一七年の世界の国際観光客数は一三億二、六〇〇万人で、二〇三〇年には一八億人に達するといわれています。また観光の経済規模は、世界全体のGDP総額の一〇%を占めています。観光は、まさに「二十一世紀の基幹産業」となりつつあります。いまは（二〇二〇年三月時点）、新型コロナウイルスのせいで、日本だけでなく世界中の観光が壊滅的な打撃を受けていますが、この状況が克服されれば、観光は他の業種に先駆けて、再び勢いを吹き返すはずです。観光分野の安



穴吹学園 理事長
穴吹 忠嗣



学長就任予定
青木 義英



学科長就任予定
安村 克己

理事長 × 学長 × 学科長

全対策についても、専門職人材が求められます。

安村 はい、その通りだと思います。感染症、自然災害、国際紛争などで、観光は低迷したり、大打撃を受けたりしますが、そのさいの対策や予防策についても、本学の観光振興学科は、積極的に考えなければなりません。

穴吹 さて、本学観光振興学科を創設するもう一つの理由ですが、それは、時代の要請ともいえる観光振興について、新たに高度専門職業教育を、本学で実践したいと考えたからです。

幸い「専門職大学・専門職短期大学」という新たな高等教育機関が二〇一七年に学校教育法の改正によってタイミングよく設けられたので、観光振興の高度な専門職業教育を、本学「せとうち観光専門職短期大学」で実践することにしました。

青木 「二十一世紀の基幹産業」である観光とその振興に即戦力となる有為な高度専門職人材を、社会のニーズに応じて、三年間という短期間にしっかりと育成する。これが「せとうち観光専門職短期大学・観光振興学科」（仮称）を創設する意図であり使命である、ということですね。

穴吹 はい。そのような使命をもつ本学の設置申請については、地域内外の多くの観光関連事業者から賛同を受け、また香川県知事と高松市長からも要望書をいただいています。



専門職大学・専門職短期大学のイメージ。
従来の大学と専門学校の長所を取り入れている。

学長、学科長、事務局長の人選は？

青木 本学の開学後には、学長や学科長の予定者をはじめ、多くの新任教員が着任し、事務局長予定者も新たに就任します。本学には現在、設置認可申請及び開学の準備を担う設置準備室がありますが、学長、学科長、事務局長の予定者は、すでに設置準備室に加わっています。

— その方々は、どのような経緯で本学に赴任されることになったのですか？

穴吹 私が本学の設置申請を相談した方から、本学学長候補の青木先生を、紹介されました。青木先生は、日本航空株式会社で海外勤務や数々の要職などを経て退職された後に、和歌山大学観光学部で一〇年間教鞭を執られています。

安村 私は、青木先生の紹介で穴吹理事長におめにかかり、本学の使命についてうかがい、設置申請に関わる決心をしました。青木先生とは、知り合ってもう一〇年になり、観光や観光教育についての見解は、二人のあいだで共有されています。私は大学に四〇年近く勤務した、大学の純粋培養教員です。観光の研究・教育歴は、三〇年ほどになります。

青木 また、大学の円滑な運営は、教育職と事務職との両輪によって進められますので、事務局長予定者として、大学事務経営のスペシャリストである多昭彦さんを本学に招きました。多さんは、設置準備室で申請事務に専念しながら、本学事務組織の構築にも尽力しています。本学の開学の暁には、本学事務職員たちが大学事務を円滑に運営し、学生の大学生活を親身に応援できるように、多さんが事務組織とその体制を整えています。

建学の精神は？

— 専門職短期大学（三年制）の設置にあたり、穴吹学長は、まず、専門学校とは異なる「建学の精神」を打ち立てていますね。

穴吹 はい、穴吹カレッジグループの専門学校では「地域の学生を地域で育て、高い専門性と豊かな人間性を育み、地域社会から信頼され、貢献できる人材を育成する」という建学の精神を謳い、地域への貢献を第一

義とする教育を実践してきました。

「専門職短期大学」（三年制）としての本学では、地域への貢献と実務の専門性にこだわって、国際性と芸術性をその「建学の精神」に織り込みました。それは、「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」というものです。これが「せとうち観光専門職短期大学」の「建学の精神」です。

青木 その「建学の精神」から、「探究心 貢献力」を本学の「校訓」とします。この校訓には、「せとうちの海より深き探究は地域社会の礎となる／せとうちの空より高き貢献は世界と人の架け橋となる」という文言がつけばきます。

どのような専門職業教育がなされるのか？

— 「建学の精神」にもとづいて「教育課程」が策定されると考えられますが、「せとうち専門職短期大学観光振興学科」（仮称）は、どのような専門職業教育をめざしていますか？

青木 専門職大学・専門職短期大学を設置する基準として、教育課程に「実習」を充実させ、卒業要件となる単位全体のなかで「実習・実技」の単位数がおおむね三分の一以上となるように決められており、そのうち約半分は企業内で実習を行う「臨地実務実習」となります。

三年制の本学の場合、「臨地実務実習」は基準としては十五単位の修得が必要ですが、本学はこの「臨地実務実習」を重視し、あえて基準より多い二〇単位の修得を卒業要件の一つとしています。本学では、多くの観光関連事業者と緊密に連携しながら「臨地実務実習」の実習プログラムを作成しました。この実習によって、学生の「実践力」と「協働力」をしっかりと鍛えます。— 実務と学術のバランスがとれた教育も、従来の大学にたいして、本学の重要な特徴ですね。

安村 ええ、その通りです。本学の教育課程（カリキュラム）において、「職業専門教育」は、「学術教科」と「実務教科」を明確に分けた科目群から成り立っています。そのうえで、「学術教科」で、考える根拠となる「理論」を学び、その「理論」にもとづき、観光振興や観光事業にかかわる「実務」を基礎的かつ実践的に身につける

られるように構成されています。

― 本学の「職業専門教育」での学術教育と実務教育の目標と相互の関連を、もう少し具体的に説明していただけますか？

安村 一方の「学術教育」では、社会現象としての観光の現実と、その現実を捉える考え方や方法とを修得しながら、「思考力」の鍛錬をめざします。本学の学術教育では、とくに「地域の持続可能性」を実現するための観光振興と地域振興にかかわる理論や知識の学修が、各科目に共通のテーマとなります。

また、もう一方の「実務教育」では、観光実務の基礎的な知識や技能を学び理解したうえで、その知識や技能を臨地現場実習などで体験的に修得しながら、「思考力」にくわえて、「実践力」や「協働力」の修得もめざします。

これまでの大学観光教育では、観光の学術教育に偏重したり、実務科目を学術科目群にむやみに付け足したりしがちでした。そこで、本学は、「理論と知識にもとづく実践と技能」という基軸から、「学術教科」と「実務教科」を系統的に結びつける、本学独自の観光振興教育のカリキュラムを作成しています。

― いまのお話しは「職業専門教育」についてですが、本学の教育課程は、「基礎教育」や「観光英語教育」、また経営、ICT、AIなどを学ぶ「展開教育」なども充実していますね。

安村 はい。他の教育区分でも、「理論と知識にもとづく実践と技能」という基軸は同じです。そして、各教育区分は、「基本から応用へ」と組み立てられています。まず、本学のカリキュラムの「基礎教育」には、「自学自修の態度」と「思考法」とを身につけるといふ、主に二つの目標があります。

「自学自修の態度」というのは、人生百年時代といわれる今日に、学生が各自の最適なキャリアを主体的に形成する土台となります。また、「思考法」は、本学三年間の教育をしっかりと修得するための基本的な考え方です。この二つの課題を、「基礎教育」の科目群で学修します。

次に、「観光英語教育」も、本学の重要な科目群となります。この科目群では、本学の三年間で、英語の基礎

力から応用力までを段階的に学び、実用的な英語力を身につけます。

青木 中学や高校の授業で英語が苦手だったという人の声をよく耳にしますが、本学の授業では、あまり心配はいりません。受験や試験のためではない英語力を、努力を惜しまなければですが、三年間できちんと修得できます。ただし、英語を身につけるといふ覚悟だけではもってられないと思います。

安村 さらに「展開教育」では、観光学以外の学問領域から、観光振興専門職に求められる応用能力を培うために、それぞれの学問の考え方や方法などを学びます。本学の「展開教育」では、観光振興専門職業人として観光振興や観光事業にたずさわって、地域イノベーションや地域の魅力づくりを実践できる「マネジメン ト力」と「情報力・創造力」の養成が目標とされます。最後に、本学の最終学年（三年次）には、三年間の修学内容を総括するための、少人数制の専門演習があります。専門演習では、「観光地研究」をテーマとして、担当教員の指導で学生がフィールドワークを行ない、研究報告書の作成や研究結果の発表などがなされます。青木 本学学生が教育課程で到達すべき学修の目標は、本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）をみてもらえれば、わかりますね。また、本学の教育課程（カリキュラム）で各科目がどのように配置され、体系的に構成されているかは、本学のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）に示されています。

安村 そして本学では、学修成績評価とは別に、学生各自の学生生活における成長度を表わす「人間力

（human resourcefulness）」を測定したいと考えています。「人間力」の測定には、本学が開発した「学修態度測定表」を用います。測定は、入学時、二年生進級時、三年生進級時、そして卒業時の四度実施されます。この測定結果は、成績評価とは全く関係なく、学生自らが大学生活や卒業後のキャリア形成に参考とするためのものです。

穴吹 本学は、理論と実践がしっかりとかけ合わされた教育課程によって、観光振興専門職業人の育成を実践する、ということですね。

授業を担当するのはどのような教員か？

― 本学の教育課程についてお話しいただきましたが、その各教科は、どのような経歴の教員によって担当されるのですか？

青木 本学の教員候補は、専任教員が一名、非常勤講師が二名で、計三名です。

専門職業大学・専門職業短期大学の設置基準では、専任教員全体の四割以上を実務経験のある教員とする、と決められています。本学の専任教員一三名は、「実務系教員」が八名、「学術系教員」が五名と二つの系統に分かれています。両系統の教員は、すでに述べた本学の教育課程において全員が結束して、観光振興専門職業人の育成という目標の達成に取り組みます。

「実務系教員」は、現状では全員を紹介できませんが、観光実務において豊かな経験と実績を有する人たちが、国際的に活躍してきた人もいます。

たとえば、中央官庁で長年にわたって観光行政にたずさわって、海外経験も豊富で、観光の理論や実践に造詣の深い人がいます。また、地元で、丸亀町商店街の活性化を実践したり、小豆島の観光振興を推進したりして、全国的に高い評価をえている地域振興の立役者たちがいます。さらには、地元地域で観光インバウンド促進や地域観光振興に活躍する旅行会社の女性社長もいます。

このように実務系教員は経験と実績が豊富な分、その平均年齢が少し高くなっていました。しかし、実務系教員の皆さんは、年齢に関係なく、若々しくバイタリティ溢れる人たちがばかりです。

穴吹 それにしても、実務系教員は多士済々です。これらの教員から、学生は観光や観光振興にかかわる多くの実践的な知識と技能を学べるはずです。

青木 実務系教員に比べると、「学術系教員」は比較的若く、学術界で将来を嘱望される若手研究者がいます。これらの学術系教員は、むずかしい理論でも、学生に分かりやすく熱心に伝える授業をします。

安村 学術系教員五名のうち四名は「博士号」取得者で、若手研究者としては研究業績も教育歴も豊富です。

これらの「学術系教員」が、授業法などをしっかりと議論して、学生の学術系科目への理解度が高まるよ

うに、授業を充実させていきます。

青木 安村さんは、日本人第一号の「観光学」博士ですね。

安村 はい。二〇年ほど前になりますが、博士（観光学）を取得しました。

私自身は、研究者としてはもうロートルですが、とくに若手研究者と一緒に観光研究の研鑽に励み、観光振興「研究」の推進に努めたいと考えています。もちろん、本学の全教員とともに、観光研究にもとづく観光振興教育も充実させていきます。

観光振興研究と地域連携について、どのように取り組むか？

「観光振興専門職」の教育に力を注ぎながら、観光振興「研究」にも努めるということですが、その研究は、どのように行なわれますか？

安村 本学の観光振興「研究」を推進するため、地域に足場を築きながら世界で観光研究の拠点となるように、観光学「せとうち学派」の構築を目論んでいます。この観光学「せとうち学派」の構築を、本学の付属研究所である「せとうち観光学研究所」で実践するつもりです。

当研究所は、「研究」にとどまらず、観光振興の「実践」についても取り組みます。研究と実践の対象地は、地元地域だけでなく、広く国内外の範囲となります。

研究や実践の交流を地域から世界まで広げるために、本学や地元地域から広く国内や世界までの、優れた学識経験者や有識者を、研究員として研究所に招きます。そして、観光振興の研究と実践の両面で世界的評価を受ける研究所にしたいものです。

「せとうち観光学研究所」は「地域連携」や「地域交流」の拠点という役割も果たすのですか？

青木 はい、その通りです。研究所は、その研究成果にもとづき、市民対象の講座、後援会、シンポジウムなどの開催、また他大学や様々な事業体との共同研究や共同事業などの実施を計画しています。

穴吹 「せとうち観光学研究所」の設立には、様々な点で大いに期待しています。私は、本学の設置以前に「研究所」を設立してはどうかと考えています。

入学しようとする学生に期待することは？

「せとうち観光専門職短期大学」（三年制）の教育研究体制は、着々と整えられています。本学はどのような学生に入学してもらいたいのですか？

青木 本学が入学志望者にもとめる「意欲や意志」、そして「知識や能力」については、本学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に示されています。が、私は第一に、本学の専門職業教育に関心をもち、入学への強い「意欲や意志」がある人たちに、まず入学してもらいたいですね。入学者にはできるだけ本学の門戸を広げたい、というのが私の個人的思いです。

ただし、本学の卒業要件には、卒業までに一科目でも不可の科目があると卒業できない「必修科目」が多く、「実習」科目も長期間なので、本学で学修する三年間は、学生にとって決してやさしい道程（みちのり）ではありません。しかし、本学の大学生活では、もちろん、いろいろと楽しい体験もできて、その三年間は、充実した貴重なものとなるはず。また、三年間の学修成果は、学生各自が思い描く通りの有意義なキャリア形成を約束します。

穴吹 本学には「道場に入門する」というような心意気で入学してほしいですね。

入学定員はあるものの、意欲のある人の入学をできるだけ歓迎し、しかし卒業要件は厳しく、という方針に私も賛同します。本学の卒業生には、輝かしい未来が待っているでしょう。

開学にあたっての抱負は？

最後に、お三方にそれぞれ本学の開学にあたっての抱負をお話しいただきます。

穴吹 本学の研究や教育の大きな構想に、私もあらためて夢が広がります。

穴吹学園は、本学の開学を全面的に支援し、本学とともに世界を見渡しながら地域への貢献に邁進します。

観光は、現在（二〇二〇年三月時点）、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響によって、国内外でたいへん厳しい状態にあります。しかし、いまは、新たな展開に向けてエネルギーを蓄える時期にあると思います。本学のエネルギーが観光の新たな展開の一助

となることを期待します。

安村 観光や観光振興の現実には、理論と実践が結びつけられる、大学教育にとって格好の「教材」となります。本学はこの「教材」を通して、「人間力」の溢れる、有為な観光振興専門職業人の育成に向けて「キャリア形成教育」に専心します。

本学の名称（仮称）には、決まりで「専門職」とか「短期大学」とかを付けていますが、本学は、まさに「新たな学校種」として、従来の大学でも短大でもない、新しい高等教育インスティテュートをめざしていきたいものです。

青木 観光振興のエキスパートの育成をめざして、その準備はいいよ整いつつあります。なによりも学生の成長を第一に願い、その成長を実現できる、従来の大学とは異次元の「せとうち観光専門職短期大学」を創っていきましょう！

せとうち観光専門職短期大学アドミッションポリシー

I. 入学者に求める意欲・意志

- 1 世界の動向を見渡し、地域社会の持続可能な発展に貢献しようという意欲を持つ者
- 2 自らのキャリアを形成しようという固い意志を持つ者
- 3 あらゆる状況で創造的に対応しようとする態度を有する者

II. 入学者に求める知識・能力

- 1 知識・技能
 - ① 英語の基本的な知識と能力
 - ② 国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目
 - ③ 観光や美術、音楽、工芸技術等のいずれかの知識や技術（望ましい）
 - ④ 専門高校卒業生…専門分野である観光や美術、音楽、工芸技術等の知識や技術を重視し評価。
基礎学力として、国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目
 - ⑤ 職業経験を有する社会人…職業経験から得られる知識及び技能も評価
- 2 思考力・判断力・表現力等の能力
 - ① 基本的な思考力、判断力と問題解決能力
 - ② 基本的な文章能力とコミュニケーション能力
- 3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ① 効果的な議論ができる基本的な論理構成力
 - ② 正確に、かつ有効に伝えることのできるプレゼンテーションの基本的能力